

平成十四年『路』年間賞

選考委員 関 水華・内平登代子・金子美知子・高橋 甫
高橋里江子・二宮茂男・堀井 勉・吉澤和子

最高賞（賞状・入賞句彫刻楯 副賞・平成十四年『路』合作本）

親ばなれした子が水を飲みに来る

高橋 甫

（特選）登代子 和子（秀逸）水華 茂男 勉

優秀賞（賞状・入賞句彫刻楯 副賞・平成十四年『路』合作本）

カップめん男の昼を軽くする

山田 不及

（特選）和子（秀逸）勉（佳作）水華



高橋 甫

最高賞

人間の体重の七〇％は水です。人間は水いらずの家庭生活をしていません。ところが社会は多様な意図で水を向けます。平和といつても水が合わない状況です。親離れをして自立を志す子が心の乾きを意識するのは当然です。

私は独り暮らし十四年、孤独と退屈に向き合って水垢のような在りようです。そんなとき子どもが訪ねてきたら、謎かけ、謎ときの関係を軽妙にすり抜けなければなりません。例えば子ども靴の紐になつたりして。



山田 不及

優秀賞

年間優秀賞に選ばれたというお知らせを戴き驚きと光栄を感じております。

「働かざるものは食うべからず」無職一年生。第三の職場までの四十数年間、弁当の重さが昼は独身という今、三分待てば何とかなる一日のまん中でヒョイと脳裏をかすめたものだった。悲喜を論ずるとすれば「喜」である。作品の方向性も明るく楽しく着飾ることはなく、こざっぱりした衣をつけたい。

次点

銃おけば腹をへらしている平和	飯田サイコ
(特選) 登代子 (秀逸) 茂男	
冷凍庫入りきれない忘備録	江澤多香子
(秀逸) 水華 和子 (佳作) 里江子	
やさしさが欲しくやさしい人になる	富田ひで子
(秀逸) 和子 (佳作) 水華 勉	
地を剥ぐと語る八月曼珠沙華	金子美知子
(秀逸) 登代子 (佳作) 茂男	
ロボットに足りないものは涙だけ	高橋里江子
(秀逸) 美知子 (佳作) 甫	
やさしい目大波いくつ越えてきた	佐々木彩乃
(秀逸) 勉 (佳作) 和子	
引き継ぎのメモに入れとく塩胡椒	荻原 鹿声
(秀逸) 和子 (佳作) 勉	
霊峰がきらつと覚める春帽子	藤原 和美
(特選) 水華	
泥人形溶かす一夜のフォルティシモ	高橋里江子
(特選) 水華	
やわらかくなるまで抱く罪の石	土谷 正
(特選) 美知子	
二人三脚鱗の音の描き切れず	藤原 和美
(特選) 美知子	
心の絵伏せて手足を躍らせる	内平登代子
(特選) 甫	
通り雨なのに真底まで濡れる	吉澤 和子
(特選) 甫	
じゃがいもの花で戦旗に靡かない	金子美知子
(特選) 里江子	
友情よ一回ずつの攻防よ	樋口 仁
(特選) 里江子	
定年の寒さに気づく足の裏	荻原 鹿声
(特選) 茂男	
物言わぬ貝は時々舌を出し	佐藤 章子
(特選) 茂男	
肩の荷が下りた絵馬から眠くなる	吉澤 和子
(特選) 勉	
許されるまでは伏流水でいる	岩淵 黙人
(秀逸) 勉	

傷癒えて許せるものをみな許す (秀逸) 水華	小野 富代
沢山の日陰を持つている地球 (秀逸) 登代子	鈴木 泰舟
それなりの火矢を抱いてる定期券 (秀逸) 登代子	荻原 鹿声
裸木に苦境を耐える知恵を聞く (秀逸) 登代子	沢田 清敏
あなどれば小石が砕く有頂天 (秀逸) 美知子	野村 春香
天敵の最上段にいるヒト科 (秀逸) 甫	渡辺 誠也
あせるなよ棚の糸瓜がゆうらゆら (秀逸) 甫	野村 春香
アハハハと笑って果てるアサリ貝 (秀逸) 甫	妹尾 安子
雑菌を洗いに川をさかのぼる (秀逸) 里江子	荻原 鹿声
介護展出るとまぶしい尊厳死 (秀逸) 里江子	吉澤 和子
偽物に近いと鏡から助言 (秀逸) 里江子	望月 弘
尻糸を継ぎ足し夫遊ばせる (秀逸) 茂男	後藤 洋子
回転寿司 癒しの海に巡り合う (佳作) 水華	高橋 甫
汗臭い分母を拭う当たりくじ (佳作) 登代子	堀井 勉
五感みな研いで二の矢を待っている (佳作) 登代子	小野 富代
分度器をはみ出している丁寧語 (佳作) 登代子	土谷 正
明日見えぬ幸せ今日を抱きしめる (佳作) 美知子	対馬ひな子
そして春一期一会の花遍路 (佳作) 美知子	渡辺 誠也
片減りの靴で魔法もなく退社 (佳作) 美知子	荻原 鹿声
同じ陽が照らす地球の明と暗 (佳作) 甫	神戸みず帆

ほどほどというほどほどが掴めない

田中寿々夢

(佳作) 甫

かくれんぼ隠れたままで幕が降り

土谷 正

(佳作) 里江子

まだ水が飲める空気を吸っている

小泉 正巳

(佳作) 里江子

寝そびれて覗き込んでる万華鏡

神戸みず帆

(佳作) 茂男

解けるまで夢を見ている冷凍魚

吉澤 和子

(佳作) 茂男

毛嫌いをしていた人に救われる

対馬ひな子

(佳作) 勉

打ち明けてみたらと煽る朧月

高橋里江子

(佳作) 和子

砂時計人降る如く人が降る

岩淵 黙人

(佳作) 和子

平成十四年二月号～平成十五年一月号掲載の推薦句から、八名の選考委員により各自が特選二句、秀逸三句、佳作三句を選び、特選二点・秀逸二点、佳作一点で集計しました。